

## 「安全・安心ふくい」実感プラン

### ～ 平成23年度の推進結果と平成24年度の重点取り組み事項 ～

県、県公安委員会および県警察では、平成23年4月、より治安の良さを実感できる安全で安心な福井県を目指すため、「安全・安心ふくい」実感プランを策定し、本プランに掲げた「犯罪の起きにくい社会づくり」や「子ども、女性を犯罪被害から守る対策の推進」を始めとする各種施策・事業に取り組んでいます。本プランは平成24年度末（平成25年3月末）までの2年間をめどとして策定していますが、ここに、平成23年度中の推進結果を取りまとめました。

平成23年の刑法犯認知件数は5,674件（前年比－384件）と平成15年以降9年連続で減少し、刑法犯の検挙率についても45.7%と全国上位を維持することができました。

しかしながら、空き巣や振り込め詐欺は増加傾向にあり、子どもへの声かけ事案や女性が被害者となる犯罪の発生も少なくありません。また、交通事故の死者数は61人（前年比＋19人）と8年ぶりに増加に転じ、高齢者が全死者数の6割以上を占め全国平均を大きく上回るなど、本県の治安情勢は依然として予断を許さない状況にあります。

県、県公安委員会および県警察では、現下の治安情勢を踏まえながら、引き続き、県民を始め市町および関係機関・団体と協力し、県民の治安向上の実感を一層高めるため、各種治安対策を強力に推進してまいります。

## 福井県の治安情勢

### 刑法犯認知・検挙状況

		平成22年	平成23年	増減数	増減率
福井県	認知件数(件)	6,058	5,674	-384	-6.3%
	検挙件数(件)	2,788	2,593	-195	-7.0%
	検挙率(%)	46.0	45.7	-0.3	-0.3 p
全国	認知件数(件)	1,585,856	1,480,765	-105,091	-6.6%
	検挙件数(件)	497,356	462,540	-34,816	-7.0%
	検挙率(%)	31.4	31.2	-0.2	-0.2 p

### 刑法犯検挙率

順位	県名	検挙率
1位	秋田	56.8%
2位	島根	54.5%
3位	山形	53.5%
}		
8位	福井	45.7%

### 刑法犯検挙率（隣接県）

県名	検挙率
福井	45.7%
石川	38.5%
岐阜	26.5%
滋賀	34.4%
京都	26.6%

### 空き巣の認知状況

	平成22年	平成23年	増減数	増減率
空き巣(件)	170	211	+41	+24.1%

### 振り込め詐欺の認知状況

	平成22年	平成23年	増減数	増減率
認知件数(件)	26	30	+4	+15.4%
被害総額(万円)	2,070	2,476	+406	+19.6%

### 声かけ事案等の認知状況

	平成22年	平成23年	増減数	増減率
声かけ事案等(件)	224	201	-23	-10.3%
女性対象犯罪(件)	78	71	-7	-9.0%

### 交通事故死者数の状況

	平成22年	平成23年	増減数	増減率
交通事故死者数(人)	42	61	+19	+45.2%
高齢者の交通事故死者数(人)	29	39	+10	+34.5%

## 取組項目

### 1 犯罪の起きにくい社会づくり

#### (1) 重層的な防犯ネットワークの整備

- 「福井県自転車盗難防止ネットワーク」や「福井県振り込め詐欺撲滅ネットワーク」など犯罪種別に着目した既存のネットワークを充実するとともに、治安情勢に応じ、子ども、女性、高齢者といった被害者対象ごとの新たなネットワークを整備

平成23年8月、全国初の「福井県コンビニ緊急連絡ネットワーク」の運用を始め、コンビニエンスストア周辺での不審者情報を店舗の専用電話へメール配信するなど、自主警戒や警察との連携を強化しました。



ネットワークを活用した強盗訓練

- 地域防犯団体と事業所の若い世代が協力した防犯活動を実施することによる地域防犯力の強化

地域との関わりが深い事業所に対し、子どもの見守り活動への参加を呼びかけ、事業所と地域防犯団体等が連携して見守り活動を実施する「地区別防犯活動連絡会」を、6中学校区において設置しました。

	平22	平23	増減
声かけ事案発生件数(件)	224	201	-23



事業所での防犯活動講習会

- リュウピーネット、安全・安心マップ等による効果的な地域安全情報等の提供

平成23年におけるリュウピーネットの発信回数は195回で、昨年11月にシステムを刷新し、希望する情報を選択できるようにしました。

安全・安心マップへのアクセス件数は10,772件で、各種団体の自主防犯活動に活用されています。



リュウピーネット

- 「ふくいマイタウン・パトロール隊」や「青色回転灯を装備した車両による自主防犯パトロール」に対する支援

安全安心ステーションモデル事業に指定された16団体に対して、パトロール用品等の調達を支援したほか、現役世代のボランティア参加を促進しました。

- ・ ふくいマイタウン・パトロール隊 236団体 11,192人



意見交換会

- 不審者の出没をけん制するため、県下統一デザインのマグネットシートや腕章の着用により見守り活動の「見える化」の推進

子ども見守り隊等に県下統一デザインの腕章や車両用マグネットシートを提供し、これらを使用した活動で「見える化」を推進しました。

- ・ 腕章を着用した地域の見守り活動者数 12,600人
- ・ マグネット使用車両台数 6,043台



マグネットシート貼付車

## (2) 社会の規範意識の向上と絆の強化

### ○ サイバー空間の安全・安心を確保するための関係機関等と連携した広報啓発活動の推進

サイバー犯罪の防止に向けて「福井県インターネットプロバイダ防犯連絡協議会」等を開催しました。また、児童・生徒、保護者、学校関係者等に対して被害防止のための広報啓発を行いました。

- ・ インターネットプロバイダ防犯連絡協議会会員 9事業所
- ・ インターネットカフェ連絡協議会会員 12事業所



福井県インターネットプロバイダ防犯連絡協議会

### ○ 少年に手を差し伸べる立ち直り支援活動による再非行の防止

平成23年4月、大学馬術部員7人を大学生パートナーに委嘱して、馬とのふれあいによる非行少年等の立ち直りを支援する環境を整備しました。

また、非行防止等に専門知識を有するスクールサポーターが、学校訪問や街頭活動を行い、再非行防止のための指導・支援を行いました。



大学生パートナー委嘱式

### ○ 家庭・学校・地域への情報発信活動や、官民一体となった犯罪抑止対策の推進などによる少年を見守る社会気運の醸成

非行情勢を掲載した「サポートセンターだより」や民間企業と協力して作成したキーホルダーを配布したほか、子育てや人間関係の悩み等を気軽に打ち明けてもらうため、「愛レター」「きずなレター」を、約7,000人の生徒と保護者に配布するなど、少年を見守る社会環境の構築に努めました。



愛・きずなレター

### ○ カラオケボックスやコンビニなど、青少年が深夜徘徊しやすい場所を中心としたパトロールにより、非行の芽を摘む社会環境づくりを推進

保護者に対する出前講座により、青少年をインターネット上の有害環境から守る対策を推進

指導員による夜間の巡回を行い、青少年の徘徊、喫煙、飲酒等の不良行為の防止に努め、非行の芽を摘む環境づくりを推進しました。

また、保護者等を対象とした出前講座を開催し、インターネット上での有害情報の現状やフィルタリングの重要性を知らせ、被害防止対策を推進しました。

- ・ 深夜の巡回指導 175日
- ・ インターネット出前講座 129回



一斉補導

### ○ 幼児に対する防犯教室の開催など、幼少時からの規範意識や防犯意識を醸成

平成23年10月、プロの劇団員による親子参加型教室「にこにこ教室」を開始し、県内の幼稚園30か所において、等身大の動物キャラクターを使った寸劇を行い、規範意識や防犯意識の向上に努めました。



インターネット出前講座



にこにこ教室

### (3) 街頭犯罪等抑止対策の推進

- 「防犯モデル戸建て住宅認定制度」の普及・促進や福井県JAグループと連携した「農村鍵かけ運動」の推進による犯罪に強い住環境の整備

平成24年3月、県警察と福井県防犯協会は、住宅会社と「犯罪の起きにくい社会づくりに関する覚書」に調印するなど、「防犯モデル戸建て住宅認定制度」の普及促進に努めました。また、平成23年10月、坂井地区3警察署と地元JA女性部との間で「地域の安全と安心を確保するための協定」を締結するなど、「農村鍵かけ運動」を推進しました。



協定の締結

- 「福井県振り込め詐欺撲滅ネットワーク」と連携した被害防止活動の推進

福井県振り込め詐欺撲滅ネットワーク会議を開催して取組強化を確認するとともに、年金支給日におけるATM集中警戒や金融機関と連携した街頭広報を実施するなど、被害防止活動を推進しました。



福井県振り込め詐欺撲滅ネットワーク会議

【振り込め詐欺認知状況】	平22	平23	増減
認知件数(件)	26	30	+4
被害金額(万円)	2,070	2,476	+406

- パトロールや立番等警察官による見える・見せる活動の推進

交番相談員を効果的に運用して警察官のパトロール時間を最大限確保し、犯罪実態等に応じたパトロールを実施するなど、街頭犯罪等を抑止するための見える・見せる活動を推進しました。



パトロールの強化

#### ☆ 今後の方針（犯罪の起きにくい社会づくり）

- 高齢者を狙った犯罪被害を防止するための広報啓発活動を強化するとともに、現役世代や若者による自主防犯活動を活性化するための「ワンアクション！県民防犯運動」を拡大するなど県民総ぐるみの防犯活動を推進します。
- 県内の事業所に対して子ども見守り活動への参加を要請し、事業所と地域防犯団体等が連携して活動するための「地区別防犯活動連絡会」の設置を6中学校区から25中学校区に拡大し、時間や場所に隙間のない見守り活動を実施します。
- サイバー犯罪アドバイザー（警察官）を養成し、取締りを強化するとともに、サイバー犯罪の被害対象となりやすい高校生を始め、児童、保護者等に対する被害防止の注意喚起や自主的なセキュリティ対策を指導するなど、サイバー空間における県民の安全・安心を確保するための施策を推進します。

## 2 子ども、女性を犯罪被害から守る

### (1) 犯罪被害から守る対策の推進

- 重大事案に発展するおそれのある声かけ、つきまとい等の前兆事案に対する先制・予防的警察活動の推進

平成23年における声かけ、つきまとい等の前兆事案に対する活動状況は、検挙30件、指導・警告72件、措置結果の情報発信26件でした。

【前兆事案に対する検挙、指導・警告件数】	(単位:件)		
	平22	平23	増減
検挙	30	30	±0
指導・警告	67	72	+5



痴漢撃退、盗撮被害防止ポスター

- シンボルマスコット、カラーガード隊等を活用した子ども、女性を犯罪被害から守る防犯広報活動の推進

平成23年4月、子どもや女性を犯罪被害から守る対策のシンボルとして、新マスコット「リュウミーちゃん」が誕生しました。

警察音楽隊と共に、防犯教室や「ふるさと子どもコンサート(教育庁文化課事業)」を開催するなど、防犯広報活動を推進しました。



新マスコット「リュウミーちゃん」による防犯教室

- 女性対象犯罪の被害防止に関する専門知識を有する人材の企業における育成

平成23年9月から、女性の多い企業等に防犯知識を備えた女性相談員(レディースガードリーダー)を育成するとともに、企業等において「女性のための防犯講座」を開催するなど、女性の被害防止と自主防犯力の向上に努めました。



レディースガードリーダー講習会

- 「子ども重点見守り隊」を設定し、保護者も含めた地域ぐるみでの一斉見守り活動の実施による被害防止対策の推進

保護者と子ども見守り隊が共同し、通学路の危険箇所を検証する「子ども重点見守り隊」を実施しました。

- ・ 子ども重点見守り隊 7市町、42小学校区、延べ7, 101人参加

- 夜間暗く危険な通学路へのLED防犯灯の整備と県下全中学校区において下校時間における安全確保活動の強化

集落間の通学路を中心にLED防犯等の新設を支援するとともに、中学生の下校時刻に合わせて、青色回転灯を装備した自動車での危険箇所等の巡回指導を実施しました。

- ・ LED防犯灯 323基
- ・ 歩道の新設 20箇所 5, 176m



子ども重点見守り隊出発式

- 防犯活動団体への女性参加を働きかけ、女性目線での防犯活動の推進  
女性を狙った犯罪が起りやすい場所で、地域住民による帰宅時間帯重点パトロールの実施

女性の防犯活動への参加意欲を高めるため、女性を対象とした防犯隊活動体験会を開催するとともに、全市町において、地域住民が人通りの少ない地域や暗い場所等での重点的なパトロールを実施しました。

- ・ 巡回パトロール 202小学校区で各5回実施



活動体験会

## (2) 被害者支援の充実

### ○ 犯罪被害の実態や被害者支援の必要性等に関する広報啓発活動の推進

「県民公開講座」や中・高校生等を対象とした「命の大切さを学ぶ教室」を開催しました。(16校、約4,510人が聴講)

また、犯罪被害者や遺族の心情を理解してもらうため、商業施設等で犯罪被害者支援コンサートを開催するなど、広報啓発を推進しました。



命の大切さを学ぶ教室

### ○ 福井被害者支援センター等との連携による被害者ニーズに応じた支援体制の充実

福井被害者支援センターなど相談窓口の周知により被害者が相談しやすい環境づくりの推進

福井被害者支援センターと連携して相談受理や支援活動を推進したほか、相談内容に応じた窓口を広く県民に知らせるなど、被害者が相談しやすい環境づくりを進めました。

	平22	平23	増減
被害者支援センターの相談受理件数(件)	215	190	-25



相談窓口の広報

## (3) 警察安全相談の充実

### ○ 女性相談者の立場に立った適切な対応を推進するため、レディースパートナー(女性警察官・職員)の育成

平成23年8月、レディースパートナー研修会を開催し、事例研究、護身術指導の訓練等を行うなど、相談対応能力の向上に努めました。

### ○ 警察安全相談窓口の周知徹底と利用促進

警察安全相談窓口や専用電話番号「#9110」の広報に努め、9月11日(警察相談の日)には出張相談所の開設を行ったほか、女性警察官が相談を受理する女性相談交番を設置するなど、利用促進のための活動を推進しました。



警察安全相談窓口の広報

	平22	平23	増減
警察安全相談の受理件数(件)	8,490	9,689	+1,199

## ☆ 今後の方針(子ども、女性を犯罪から守る)

○ 子どもの安全・安心を確保するため、防犯灯を整備するとともに、「子ども重点見守りデー」等の見守り活動や地域ぐるみの防犯活動を県内全市町、100小学校区に拡大し、通学路の安全対策を推進します。

○ 女性を狙った犯罪を未然に防止するため、犯罪が起こりやすい場所でのパトロールや女性の視点に立った防犯活動を推進するとともに、女性が多い企業等において、女性相談員(レディースガードリーダー)の育成と防犯講座の開催を拡充するなど、女性のための防犯対策を強化します。

○ DV(ドメスティック・バイオレンス)やストーカー被害を始めとする警察安全相談について、引き続き、相談者の安全を最優先とした対応を推進します。

### 3 犯罪の徹底検挙

#### (1) 重要犯罪等の取締り

##### ○ 各種捜査支援システムの整備強化と積極的な活用による重要犯罪の徹底検挙

平成23年における重要犯罪の検挙件数は41件で、前年より2件減少しましたが、検挙率は95.3%でした。

##### 【主な検挙事例】

- ・ コンビニエンスストアにおける持凶器強盗事件 (平23.5 敦賀)
- ・ 一般住宅における住居侵入・強盗事件 (平23.7 あわら)
- ・ 外国人施設等を対象とした連続車両放火事件 (平23.10 福井)

##### 【重要犯罪の認知・検挙件数】

	平22	平23	増減
認知件数(件)	61	43	-18
検挙件数(件)	43	41	-2
検挙率(%)	70.5	95.3	+24.8p

※ 重要犯罪:殺人、強盗、放火、強姦、略取・誘拐、強制わいせつ



犯罪捜査活動

##### ○ 他の都道府県警察との積極的な合・共同捜査の推進による広域窃盗事件の徹底検挙

##### 【主な検挙事例】

駐車車両の車載カーナビを狙う広域連続窃盗事件について、大阪府警察等の11府県警察による合・共同捜査を推進した結果、検挙人員44人、検挙件数約2,500件、被害総額約5億5,000万円に上る組織窃盗事件を解決しました。(平24.2 解決)



検視教養(刑事実戦塾)

##### ○ 的確な検視を実施するための体制の整備と人材の育成

犯罪死体を見逃さないため、検視官との連携を強化し、積極的に司法解剖を行うなどの的確な検視業務を推進しました。

また、実戦的な専科教養等により、検視技術の向上に努めました。

#### (2) 街頭犯罪の取締り

##### ○ 積極的な職務質問による街頭犯罪の徹底検挙

広域技能指導官等による職務質問の指導体制を充実させるとともに、自動車警ら隊の改編、警察署自動車警ら係の設置によりパトロール体制を強化し、職務質問による街頭犯罪の徹底検挙を推進しました。

##### 【地域警察官の職務質問による犯罪検挙】

- ・ 刑法犯検挙件数 629件(前年比 +137件)
- ・ 特別法犯検挙件数 137件(前年比 +35件)

##### 【検挙が増加した主な犯罪】

- ・ 粗暴犯 179人(前年比 +62人)
- ・ 窃盗(オートバイ盗) 40人(前年比 +20人)
- ・ 覚せい剤取締法違反 31人(前年比 +23人)
- ・ 銃砲刀剣類所持等取締法違反 26人(前年比 +6人)



街頭犯罪の取締り

### (3) 少年に係る犯罪の取締り

#### ○ 児童ポルノ事犯など福祉犯罪の取締り

##### 【主な検挙事例】

- ・ ファイル共有ソフトを利用した児童ポルノ法違反事件  
(平23. 4 少年課、福井 合同捜査)
- ・ 福井市内で知り合った女子高生に対する県青少年愛護条例違反、児童ポルノ法違反事件  
(平23. 8 少年課、福井 合同捜査)

#### ○ 暴走族の違法行為に対する取締りの徹底

暴走族の取締りおよび夏期における県外暴走族等の流入阻止対策等を推進し、違法行為に対する取締りを強化しました。

##### 【主な検挙事例】

- ・ 福井、坂井、鯖江市を拠点にしていた暴走族3グループ、7人による道路交通法違反(共同危険行為)事件  
(平23. 11 交通指導課、福井、福井南、坂井、鯖江 合同捜査)



県外暴走族の流入阻止対策

### (4) 振り込め詐欺の取締り

#### ○ 取締体制の強化および他の都道府県警察との積極的な合・共同捜査の推進による犯行グループの徹底検挙

##### 【主な検挙事例】

- ・ 警察官や金融庁職員を装ってキャッシュカードを騙し取った振り込め詐欺事件  
(平23. 5 福井県警察、山梨県警察、高知県警察 合同捜査)
- ・ 投資関連会社等を装って現金を騙し取った振り込め詐欺事件  
(平24. 1 福井県警察、神奈川県警察、千葉県警察等 合同捜査)



振り込め詐欺事件において押収した現金や物品

#### ○ 犯行グループに預貯金口座や携帯電話を提供するなど、振り込め詐欺の犯行を助長している犯罪の徹底検挙

平成23年における振り込め詐欺の犯行を助長する犯罪の検挙人員は20人で、前年より9人増加しました。

##### 【主な検挙事例】

- ・ 暴力団周辺者による振り込め詐欺に使用された預金口座詐欺事件  
(平23. 7 坂井)

## (5) 暴力団等反社会的勢力の取締り

### ○ 「暴力団排除条例」や各種法令を活用した暴力団等反社会勢力の取締り および資金剥奪の徹底

平成23年における暴力団構成員等の検挙人員は、刑法犯と特別法犯を合わせ103人で、前年より34人増加しました。

#### 【主な検挙事例】

- ・ 暴力団幹部らによる逮捕監禁、傷害事件  
(平23. 8 福井、福井南、あわら、鯖江、越前等 合同捜査)



暴力団事務所に対する捜索

### ○ 地域・職域での暴力団排除気運の高揚による社会一体となった暴力団排除活動の推進

平成23年4月1日、福井県暴力団排除条例が施行され、暴力追放福井県民大会の開催を始め、新たな暴排協議会の設立や不当要求防止責任者講習等により、社会一体となった暴力団排除活動を推進しました。

#### 【主な取組】

- ・ 福井県公益事業暴力団排除条例推進連絡会の開催 (平23. 9)
- ・ 暴力追放福井県民あわら大会の開催 (平23. 10)



暴力追放福井県民あわら大会

### ○ 「暴力団排除特別強化地域」における暴力団排除活動の徹底

平成23年6月、福井県暴力団排除条例に基づき、「暴力団排除特別強化地域」に指定された敦賀市本町地区で、みかじめ料を受け取った暴力団組員と支払った飲食店経営者に対し、同様の行為をしないよう勧告(初適用)するなど、暴力団排除活動を推進しました。

### ○ 薬物・銃器事犯の徹底検挙による需要と供給の遮断および各種法令を駆使した収益の剥奪による犯罪組織の弱体化・壊滅

平成23年における薬物犯罪の検挙人員は47人で、前年より9人増加し、押収量も前年より増加しました。

また、銃器犯罪の撲滅に向けて情報提供を呼びかけた結果、家族関係者等からの届出により、遺品の銃2丁を押収しました。

#### 【主な検挙事例】

- ・ 暴力団幹部による覚せい剤密売事件  
(平23. 10 福井、大野、あわら、坂井、鯖江、越前等 合同捜査)
- ・ 風俗店アルバイト店員による大麻所持・栽培事件  
(平23. 11 福井、小浜 合同捜査)



押収された覚せい剤

### ○ 関係機関と連携した来日外国人犯罪組織の実態解明、取締り等犯罪のグローバル化対策の推進

税関、入国管理局等の関係機関と連携して、犯罪組織の実態把握等を推進し、取締りを強化しました。

#### 【主な検挙事例】

- ・ アフガニスタン人によるひき逃げ死亡事件 (平23. 6 福井南)
- ・ ブラジル人による覚せい剤取締法違反事件 (平23. 11 福井)



押収された乾燥大麻等

## (6) サイバー犯罪の取締り

- インターネット等を悪用するネットワーク利用犯罪など、サイバー犯罪に的確に対応するための体制の整備と人材の育成

平成23年9月、県警察にサイバー犯罪対策委員会を設置したほか、サイバー捜査実務専科を実施し、体制強化と人材育成を行いました。

【サイバー犯罪の検挙件数】	(単位:件)		
	平22	平23	増減
ネットワーク利用犯罪	40	52	+12

※ ネットワーク利用犯罪：その実行に不可欠な手段として高度情報通信ネットワークを利用する犯罪をいいます。

例) 詐欺、児童買春・児童ポルノ法違反、福井県青少年愛護条例違反、著作権法違反等



サイバー犯罪対策委員会

## (7) 生活経済事犯の取締り

- 悪質なヤミ金融事犯の取締りと迅速な犯行ツールの無力化対策の推進

金融機関に対する口座凍結情報の提供や電話事業者に対する携帯電話の契約者確認を行い、犯行ツール無力化対策を推進しました。

【犯行ツール無力化対策の推進状況】	(単位:件)		
	平22	平23	増減
口座凍結情報提供数	68	205	+137
携帯電話契約者確認	4	25	+21

- 悪質商法などの徹底検挙と関係機関と連携した被害防止活動の推進

### 【主な検挙事例】

- ・ 元学習塾経営者による出資法違反および詐欺事件  
(平23. 8 福井県警察、石川県警察 合同捜査)
- ・ シロアリ駆除業者による特定商取引法違反事件 (平23. 7 鯖江)

- 量販店等において出張相談室を新たに設置するとともに、市町も利用できる弁護士等の専門家を配置した相談体制の強化

市町の消費生活相談員が、弁護士等に直接電話で相談できる体制を整備するなど、相談体制の強化や対応の迅速化に努めました。

また、ショッピングセンター等において、県民が直接相談できる出張相談会を開催し、消費者トラブルの未然防止に努めました。

- ・ 専門家による相談会、出張相談会の開催 209回



出張相談会

## ☆ 今後の方針（犯罪の徹底検挙）

- 体感治安に著しい影響を及ぼす殺人や強盗等の重要犯罪、暴力団等による組織犯罪等を徹底して検挙するため、引き続き、捜査活動に全力で当たります。
- 多様な消費者問題に対応し、関心の低い若い世代への教育を強化するほか、生活経済事犯を始めとする各種犯罪の取締りを徹底します。

## 4 交通事故から県民を守る

### (1) 高齢者対策の推進

#### ア 歩行者・自転車利用者対策

##### ○ 街頭における交通安全指導啓発活動および個別指導の強化

「交通死亡事故ゼロの日」を設定し、街頭における交通安全指導等を推進したほか、交通安全サポーター42人が保護誘導活動、個別訪問による交通安全指導を実施しました。

また、福井県道路交通法施行細則の一部改正により、自転車運転中の携帯電話使用等を規制し、積極的な指導警告を実施しました。



「交通死亡事故ゼロの日」  
における啓発活動

##### ○ 自転車シミュレータなど交通安全体験機材を活用した参加・体験・実践型の交通安全教室の推進

平成22年11月から運用を開始した自転車シミュレータを活用し、体験型の交通安全教育を推進しました。

##### 【体験型交通安全資機材の体験者数】(単位:人)

	平23
自転車シミュレータ	7,835
歩行者横断トレーナー	2,887



自転車シミュレータを  
活用した交通安全教育

##### ○ 量販店や街頭などで高齢者の靴に反射材を貼付する「反射材ピカピカ作戦」による夜間事故防止活動の強化

全市町を交通安全広報車で巡回し、病院や量販店、イベント会場等で、高齢者の靴、カバン等に直接反射材を貼付する活動を行いました。

##### 【主な取組】

- ・ 街頭、量販店等で靴やかばんに直接反射材を貼付(59,910名)
- ・ 「ピカピカキャラバン隊」キャラバン車による広報活動を実施(全市町)
- ・ 高齢者が体験して学ぶ、交通安全研修を実施(3,496人)



「反射材ピカピカ作戦」

#### イ 運転者対策

##### ○ 講習予備検査結果に基づいた記憶力や判断力低下の自覚の促進

平成23年10月から12月までの間、指定自動車教習所協会と連携して実車を使った運転適性診断を実施しました。

- ・ シルバーセーフティドライバー講習  
70歳以上の軽微な人身事故・物損事故を起こしたドライバーを対象とした任意講習で、延べ95人が受講
- ・ シニアドライビングドック  
60歳代のドライバーを対象とした任意講習で、延べ283人が受講



シルバーセーフティ  
ドライバー講習

## (2) 飲酒運転など悪質危険運転者対策の推進

### ○ 飲酒運転根絶気運の高揚のための広報啓発活動の推進

県下の小学生とその家族各500人をリュウピー交通保安官とファミリー隊員に任命して広報啓発活動を行ったほか、ハンドルキーパー運動の普及、飲酒運転通報専用ダイヤルの設置等を行うなど、家庭・地域・職場における飲酒運転根絶に向けた総合対策を推進しました。



リュウピー交通保安官  
任命式

## (3) 交差点事故対策の推進

### ○ 「よく見て！交差点」広報隊等による事故の多い交差点等での安全運転の呼びかけの実施

交通事故多発交差点やイベント会場付近において、「よく見て！交差点」広報隊、交通安全パートナー事業所等が街頭啓発活動を実施し、ドライバー等に交差点の危険性を喚起しました。(10箇所、延べ222名参加)



「よく見て！交差点」  
広報隊

## (4) 被害軽減対策の推進

### ○ 各種講習会などあらゆる機会を通じ、チャイルドシート使用およびシートベルト着用による被害軽減効果等の広報

シートベルト体験車を活用した交通安全教育、広報啓発活動を推進しました。

【シートベルト、チャイルドシート着用率】	(単位:%)		
	平22	平23	増減
運転席シートベルト	95.7	97.5	+1.8p
助手席シートベルト	88.5	91.7	+3.2p
後部座席シートベルト	37.7	30.4	-7.3p
チャイルドシート	32.9	44.8	+11.9p



シートベルト体験車

## (5) スロードライブの推進

### ○ 主要道路の制限速度を超過しやすい場所で、スピードガンによる速度状況調査やスロードライブの呼びかけの実施

制限速度を超過しやすい主要道路11地点において速度状況調査を行い、結果を県のHPで紹介するとともに、主要交差点等で市町や関係団体と協力して「スロードライブ」を呼びかける街頭啓発を実施しました。

(街頭啓発活動 487箇所)



スローダウン旗による  
街頭啓発活動

## (6) 「脱！クルマ依存社会」の推進

### ○ カー・セーブデーやパークアンドライドによる通勤時の車の利用を抑える運動やイベント等の交通混雑時に自転車を利用できる環境整備の推進

行政、民間企業、団体等で構成する「クルマに頼り過ぎない社会づくり推進県民会議」を設立し、過度なクルマ依存からの転換に向けて社会全体で取り組むアクションプランを策定しました。

アクションプランを周知広報するため、県民フォーラムを開催するとともに、「自転車で3キロ」運動を進めるための「福井バイコロジスト」宣言者の募集、無料の自転車点検整備会等を実施しました。



県民フォーラムの開催

### ○ 「スマートサイクル宣言」による自転車のルール・マナー遵守の徹底 高校生に対する自転車シミュレータを活用した交通安全教室の推進

県内の高校生を対象に、自転車シミュレータを使用した自転車乗用時の危険擬似体験を行い、自転車の基本的なルール等を周知させるとともに、安全で安心にかしこく(スマート)自転車を利用する「スマートサイクル宣言」により、安全運転の実践および意識の向上を促進しました。

- ・ スマートサイクル宣言者 5,280人



自転車シミュレータを活用した交通安全教室

## ☆ 今後の方針（交通事故から県民を守る）

○ 高齢者の交通事故を防止するため、歩行中や自転車利用中の高齢者（交通弱者）に対して、シルバー交通安全サポーター等による交通安全指導や反射材の普及、参加・体験型の交通安全教育を徹底するとともに、高齢運転者に対しては、身体機能の自覚を促す運転適性診断や講習を行うなど、高齢者に対する総合的な交通事故防止対策を推進します。

○ 「交通安全新3S（シルバー・スロー・シー）運動」を推進し、特に、県民にゆとりある速度で走行する「スロードライブ」の実践を促すため、新たに「一斉スロードライブデー」を設けて、主要幹線道路を中心に大規模な街頭啓発活動や反射材貼付活動を行うことにより、交通死亡事故を抑止します。

## 5 テロ、大規模災害等から県民を守る

### (1) テロ未然防止対策の推進

#### ○ 原子力関連施設、公共交通機関等に対する警戒警備の推進

当県の原子力関連施設警戒隊と他県の応援部隊により、24時間体制で警戒警備を継続しています。特に、福島第一原子力発電所の事故以降は、冷却設備や電源設備等の枢要施設に対する警戒を強化するとともに、警戒要領の検討を行っています。

また、平成23年11月に自衛隊との治安出動時を想定した共同実動訓練、12月にJR福井駅構内での化学テロを想定した初動対処訓練を行うなど、テロ対処能力の向上に努めました。



化学テロ対処訓練

#### ○ 拉致容疑事案等に対する捜査・調査を推進するとともに、沿岸警備協力会と連携した沿岸線の警戒の強化

当県で発生した北朝鮮によるアベック拉致容疑事案および拉致の可能性を排除できない行方不明事案の捜査・調査を推進しています。

また、平成23年9月から11月までの間、各地区沿岸警備協力会による沿岸警備茶屋を開催するとともに、沿岸パトロールを行いました。

さらに、6月には、福井県沿岸警備協力会総会において、沿岸警戒強化のための教養を行いました。



沿岸警備協力会と連携した沿岸線の警戒

#### ○ 爆発物原材料を取り扱う店舗、旅館、ホテル等に対して働き掛けを行うなど、関係機関と連携した諸対策の推進

県内約1,400の爆発物原料販売事業者のうち、約330の重点対象事業者に対して、毎月1回以上訪問し、ロールプレイング方式の実践演習を行いました。

また、情報誌「セキュリティネットワーク」を発出するなど、関係機関と連携した対策を推進しました。



爆発物原料販売事業者に対する働き掛け

#### ○ 海上保安庁や入国管理局、サイバーテロ対策協議会など関係機関との連携を強化し、実戦的な合同訓練によるテロ対処能力の向上

「福井県サイバーテロ対策協議会」に加盟する重要インフラ事業者へ個別に訪問して、情報セキュリティに関する情報を交換したほか、昨年、防衛産業関連事業者等に対する標的型メール攻撃が相次いで判明したことを受け、事業者に対する注意喚起や助言・指導を行いました。

また、12月には、事業者に対する標的型メール攻撃対処訓練を行い、標的型メール受信時における対処要領の確認および標的型メールに対する担当者の危機意識の啓発に取り組みました。



サイバーテロ対処訓練

## (2) 大規模災害対策の推進

### ○ 自衛隊、消防等関係機関との合同訓練の実施による部隊員対処能力の向上

自衛隊、消防等関係機関との合同訓練を実施して連携を強化するとともに、広域緊急援助隊等の対処能力向上に努めました。

(県・警察主催の訓練)

- ・ 福井県総合防災訓練 ( 8月28日:若狭町)
- ・ 中部管区広域緊急援助隊合同訓練 (11月15、16日:坂井市)

(市町主催の訓練)

- ・ 福井市、大野市、あわら市、鯖江市、永平寺町、南越前町における総合防災訓練 (6月～10月)



福井県総合防災訓練



中部管区広域緊急援助隊合同訓練

### ○ 地震・集中豪雨等の大規模災害に備え、装備資機材を整備するとともに、災害情報を迅速に収集するための態勢の強化

東日本大震災への特別派遣部隊が活動するために必要な装備、県内で大規模災害が発生した場合に備えた装備資機材等を整備しました。

また、平成23年6月、土砂災害防止月間に市町、消防、土木事務所等関係機関との合同パトロールを行い、災害危険箇所を把握して資料化するとともに、災害情報を迅速に収集するための態勢を強化しました。

- ・ 災害関連情報の提供を目的とする災害モニターの委嘱 (平23. 6 福井)
- ・ 災害時協力会の設置および災害時協力会員の委嘱 (平24. 2 小浜)



土木事務所等関係機関との合同パトロール

### ○ 大規模災害発生時、県民生活に係る警察業務を遂行するための警察情報の分散保管

警察本部内に設置したネットワーク機器の免震性を強化したほか、緊急時に起動するサブシステムの整備等を進め、災害発生時の警察機能の維持・強化に努めました。

## ☆ 今後の方針（テロ、大規模災害等から県民を守る）

- テロを未然に防止するため、原子力関連施設における24時間体制での警戒警備を継続するとともに、更なる警戒体制の強化と警戒要領の検討を進めます。
- 東日本大震災の教訓を踏まえ、災害警備計画等の検討を進めるほか、装備資機材を整備するなど、大規模災害対策を推進します。

## 6 警察力の充実強化

### (1) 初動警察活動の強化

#### ○ 通信指令システムの高度化など、通信指令機能の強化による組織的かつ効果的な初動警察活動の推進

平成23年4月、新通信指令システムの運用を開始するとともに、初動警察活動に関する規程の見直しを行うなど、通信指令機能を強化し、事件・事故への迅速な対応に努めました。

【110番通報受理件数】	(単位:件)		
	平22	平23	増減
有効	35,356	36,102	+746
非有効(いたずら等)	7,511	7,439	-72
総受理件数	42,867	43,541	+674



新通信指令システム

#### ○ 初動警察における事案対応能力の向上

重要事件発生時における迅速・的確な警察活動を推進するため、実戦的な緊急配備訓練等を行いました。



緊急配備訓練

#### ○ 通信指令を担う人材育成の強化

通信指令に携わる職員の技能を向上させるため、通信指令技能検定、大規模県警察での長期研修等を行いました。

この結果、平成23年11月に開催された「全国通信指令・無線通話技能競技会」において、福井県警察チームが全国第3位に入賞しました。



全国通信指令・無線通話技能競技会

### (2) 現場執行力の強化

#### ○ 若手警察官の早期育成と幹部の指揮能力の充実に向けた実践的訓練や伝承教育の推進

若手警察官に対する事案を想定した実戦的訓練や、被害を最小限に抑えながら犯人を制圧逮捕するための術科訓練、技能指導官による伝承教養等を行い、知力・体力両面での育成を推進しました。

また、幹部または幹部に昇任予定の警察官に対し、捜査実務に関する知識・技能の教養、突発重大事件・事故発生時の指揮要領を再確認する図上訓練等を行い、指揮能力の充実に努めました。



術科訓練

### (3) 司法制度改革への的確な対応

#### ○ 裁判員裁判に対応する書類作成や証拠収集の徹底等に関する指導・教養の実施

裁判員裁判に対応するための指導・教養を行い、平成23年度に審理された裁判員裁判の裁判員が理解しやすいよう、簡略明瞭な捜査書類の作成等に努めました。



捜査員に対する教養

#### ○ DNA型資料の徹底採取による鑑定と適正保管の実施

平成23年におけるDNA型鑑定の件数は2,171件で、前年より431件増加しました。裁判員制度の導入等で客観的証拠収集の必要性が増大しており、DNA型鑑定は、殺人事件等の凶悪事件だけでなく、窃盗事件等の身近な犯罪にも活用されています。

鑑定資料については、腐敗等の変質を防止するため、冷凍庫を活用し、適正な保管に努めました。



DNA型鑑定

	平22	平23	増減
DNA型鑑定の件数(件)	1,740	2,171	+431

### (4) 警察施設などの整備充実

#### ○ 地域の治安の要となる警察署や交番・駐在所など、大規模災害にも耐え得る警察施設の整備による現場執行力の強化

##### ・ 警察署の整備

平成23年1月から、福井警察署の新庁舎建築工事を開始しており、平成24年8月末の完成予定です。

##### ・ 交番・駐在所の整備

越前警察署 有明交番 (平24. 2 完成)  
福井南警察署 花堂交番 (平24. 3 完成)

##### ・ その他施設整備

運転者教育センターの耐震補強工事実施設計や福井警察署御幸交番の移転建替え等を計画しています。



新福井警察署  
(イメージ図)



越前警察署 有明交番

## (5) 交番機能の強化

### ○ 自動車警ら班等と交番の連携による地域に密着した街頭活動の強化

事件・事故の多発地域を重点的に警らするとともに、犯罪発生時には、自動車警ら隊および警察署自動車警ら係と交番が連携した迅速な捜査により、重要事件の被疑者を検挙しました。

#### 【主な検挙事例】

- ・ 職務質問を振り切って逃走した男による無免許運転、覚せい剤取締法違反事件  
(平23.4 敦賀)



街頭活動

### ○ 警察分庁舎の活用による地域住民の安全性および利便性の確保

分庁舎には、分庁舎長(警部)以下、地域警察官、警察安全相談員等を配置して、各種届出・申請に対する迅速な対応を心掛け、地域住民の安全性および利便性の向上に努めました。



鯖江警察署 丹生分庁舎

## ☆ 今後の方針（警察力の充実強化）

- 大規模災害に耐え得る警察署や交番などの施設整備を始め、現場執行力を強化するための捜査員に対する教養の充実など、警察活動を支える人的・物的基盤の整備に取り組みます。

平成24年5月24日

福 井 県 知 事

西 川 一 誠

福井県公安委員会委員長

松 本 幸太郎

福 井 県 警 察 本 部 長

富 田 邦 敬